賢く　優しく　逞しく

５月号・令和４年５月６日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

若い世代の活躍

校　長　榎戸　千代子

新緑のまぶしい時期となりました。一年の中では吹く風に清々しさを感じる頃ですが、最近は夏日もあり、季節をゆっくり味わう機会が少なくなってしまったように感じます。

雀らも　海かけて飛べ　吹流し　　石田　波郷（1913-1969）

この句は、波郷の長男が誕生したときに詠まれました。端午の節句の吹流しを眺めながら、元気に飛んでいく雀のように、我が子も風（困難）に負けず広い未来に向かって羽ばたいてほしいという作者の思いが伝わってきます。健やかな成長と明るい未来を願う親心を感じる句です。

さて、５月１日は、本校の開校記念日でした。昭和５５年に市内で５番目の学校として開校し、今年で４２周年を迎えました。校長室には、校舎が一面の畑に囲まれていた開校当時の写真と、１０年、２０年、３０年、４０年と周年行事ごとに撮った記念の写真が飾られています。これを見ると学校の周辺は徐々に住宅が増え、歩んできた歴史を感じます。

たくさんの可能性を秘めた五中生には、「賢く」「優しく」「たくましく」の教育目標のもと、先輩方の築いてこられた「挨拶」「礼儀」「自主・自律」の精神をよき伝統として受け継ぎ、地域・社会の中で活躍、貢献できる人に成長してもらいたいと願っています。

ところで、若い力と言えば、プロ野球パ・リーグの千葉ロッテマリーンズに所属する佐々木朗希選手（２０歳）がものすごい記録を出しました。４月１０日（日）のオリックス・バッファローズ戦で、史上１６人目となる完全試合を２８年ぶりに達成しました。先発投手が走者を一人も出さずに完封勝ちする完全試合を２０歳５か月、史上最年少で達成しました。完全試合の達成は、平成６（１９９４）年の槙原寛己（巨人）選手以来だそうです。また、１回二死から５回まで、プロ野球新記録となる１３連続三振をマーク、最速１６４キロの直球と鋭く落ちるフォークボールを軸に、プロ野球タイ記録の一試合１９三振を奪いました。このような数々の偉業を成し遂げた「令和の怪物」佐々木投手は一体どのような人物なのでしょうか？

彼は、岩手県陸前高田市の出身です。小学校３年生の時に東日本大震災に遭い、父と祖父母を亡くし、母方の親族が住む大船渡市へ移り住みました。大船渡高校時代に高校生最速の１６３キロをマークし、令和２（２０２０）年、ドラフト１位でロッテに入団しました。「身長が止まるまでの間無理をすると故障しやすい」との専門家の意見を受け、１年目は公式戦に登板せず、身体強化に専念しました。２年目も登板間隔を空け、黙々と続けたランニングや、体幹、下半身を鍛える独自のメニューで、鍛錬を積み重ねてきたそうです。「自分のやるべきタイミング、出番はある。その時までコツコツ続ける。」と地道に努力を重ね、３年目の今季は、投球フォームも安定し、快速球を放りながら、制球力も向上したと言われています。

今、日本ではスポーツ界をはじめ、その他様々な分野で、若い世代が活躍しています。これらの注目されている若者は、一見華やかに見えますが、実は私たちの知らないところでものすごい練習やトレーニングを積んでいるということですね。

生徒の皆さんは自分の目標に向かって地道に取り組んでいますか？今年度最初の定期テストが目前に迫ってきました。まずは、家庭学習に励んでください。

明るいあいさつ・みんなの笑顔　第五中学校区（二小・八小・十小・五中）